

情報共有

4枚 (非管理メモ)

東京電力株式会社

官邸班、NISA班 ← プレス対応4人

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 7 月 21 日 (木) 11:00~11:20

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 30 名 (カメラ 5 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (7月21日 6:00 現在)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (7月21日)

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 1号機リアクタービルの水位が4,921mmというのは午前10時の値か。

A. 本日午前7時の値である。

Q. 昨日の16時比で409m上昇と急激に上昇しているが問題ないのか。また、何故急激に増えたのか。

A. 原子炉への注水は3.8m³/hと一定なので、昨日からの水位上昇は雨水によるものと判断している。1号機のオペレーションフロアは屋根が無いので、屋上に降った雨がそのまま地下に注がれたと思われる。本日天候は回復しているものの、上昇した水が廃棄物処理建屋を経由して2号機タービン建屋まで流れ込んでいると考えられる。

Q. 昨日降った雨の影響と思われるが、昨日のサイト内の雨量情報はどうか。

A. サイト内に雨量計はないが、近隣の浪江町もしくは大熊町のアメダス情報等の気象情報を確認させていただきたい。

Q. O.P. 4921mmということだが、水位の管理上は1号機のリアクタービルにおいて目標値に対してどの程度の余裕があるか。

A. O.P. 4921mmで床面からは6151mmということになる。地下1階のフロア自体は約11mの高さがあるので、まだ490mm程度の余裕がある。流入する水について補足すると、直接原子炉建屋への流入分と、タービン建屋側に入ってくる水が一部原子炉建屋を経由して2号機側に抜けているケースがある。

Q. 地下水との水位の関係で管理する目標があると思うが、それも含めて余裕があるのか。

A. 雨が降っているとサブドレンの水位も上昇するので両方上がっていることになり、

それを含めて余裕があると思うが、詳細は確認させていただく。

Q. 10日以上の余裕があると思うが、増えた分についてはどう管理していくのか。

A. 特に手を施したりはしないが、廃棄物処理建屋を経由して2号機タービン建屋の水位が上昇することになる。2号機からプロセス主建屋に移送するが、たまり水の処理については純増という形になる。

Q. 汚染水処理を前倒しにするといった切迫した状況ではないという判断でよいか。

A. 2号機については、タービン建屋のトレンチの管理目標水位4mに対して50cm程度余裕があるので問題ないと考えている。

Q. 4号機の使用済燃料プール支持構造物の工事は8分の7段目を実施するという理解でよいか。

A. その通り。昨日準備が終わり、本日コンクリートを入れる。

Q. 柏崎刈羽原子力発電所において、作業員が発電所に入る際に写真入りの登録書を何故導入する必要があったのか。

A. 柏崎刈羽原子力発電所においては従来から採用している。福島第一原子力発電所においては今回の地震発災後、システムが停止して使えなかったため、改めて写真入りの登録証を発行した。

Q. なぜ写真入りである必要があるのか。

A. 発電所の周辺監視区域内に入るためには写真入りの登録証による本人確認が必要のため。

Q. 本日までの本人確認はどのように行っているのか。

A. 発災当時は確認不十分だったが、現時点では顔写真付きの免許証やパスポート等で確認し、元請け企業から来ている申請書類と照合する。

Q. 今後台風などが来た際に抜本的な雨水対策は考えているか。

A. 1号機については9月末までに原子炉カバーを設置する。3、4号機については瓦礫の撤去を通じて放射性物質の拡散防止、使用済燃料プールの燃料取り出しを優先させている。水処理システムの稼働をさらに向上させることで、タービン建屋側のたまり水の水位を下げ、受け入れられる量を増加させることが肝要である。

Q. 原子炉への注水量については1、2号機は減少させているが、今後も減らす予定はあるのか。

A. 圧力容器の温度は少しずつ減少しているため、もう少し流量を絞ることは可能であるが、現状変更する予定はない。今後、豪雨や台風などで水位が上昇した際は再度検討する可能性はあると考えている。

<水処理装置の自動停止に関する報告>

8時38分に水処理装置が停止したが、これはSPT(B)の水位計の電源停止により停

止したことで、システム全体に停止信号が発せられたもの。本来予定していた停止は午後であったが、数時間前倒しで停止に入ったことになる。

<水処理装置の自動停止に関する質疑>

Q. SPTの電源停止についてももう少し詳しく説明して欲しい。

A. アレパの処理装置の出口側にSPT(B)という処理水を受けるタンクがあるが、電源が停止することは予め把握していたが、電源停止により水位計が見られなくなりシステム全体へ自動停止信号が発せられるところまでは把握できていなかった。結果的には今回手動停止する予定だったが、自動停止となったもの。

Q. 東京電力として想定が足りなかったということか。

A. その通り。

Q. 1号機原子炉建屋の昨日7時現在の水位は。

A. 昨日午前7時では4,482mm。昨日16時の段階では4,512mm。昨日の7時と16時では30mm、昨日16時から本日7時では409mmの上昇となる。

Q. 屋根がないという意味では3,4号機も同様だが、通常3,4号機の原子炉建屋の水位は出していないが、傾向としてはどうか。

A. 2号機も含めて、3,4号機の原子炉地下1階に貯まり水があることは把握しているが、水位計が未設置のため実際には把握できていないが、タービン建屋の水位と同レベルではないかと推定している。タービン建屋側の水位は、プロセス主建屋へ移送するが降雨により水位の低下量が出ないことがあるなどの状況の面から雨水の影響があると把握している。

Q. 現在の天候は。

A. 雨は降っていないと聞いている。

Q. SPTタンクの電源が落ちシステム全体の電源が落ちた件は、どのような影響があるか。また、具体的に何時間程度停止が前倒しになったのか。

A. 停止は15時30分を予定しており、およそ7時間程度前倒しとなったことから、その時間に相当する処理量に影響が出たものと考えている。なお、システム全体の電源停止に関連して漏洩等は発生していない。

Q. 7時間分の前倒しは全体計画にどのように影響するか。

A. 具体的な量として37m³×7時間分が計画外の低下量となり、稼働率約3%のロスとなる。

Q. 水位計は作業員が手動で止めたのか、電気の供給が無くなったことによる停止なのか。

A. 電気の供給が無くなり停止したもの。

Q. 原子炉への注水はバッファータンクからの水で賄えるのか。

